

# インタビューコーナー

「まち」では昔から、文化財などの歴史資源と自然環境が調和した景観づくりが行われてきました。地域の自然と深く結び付いた伝統的建造物や地域の文化と深く結び付いた民族芸能などは、本市の環境を形成する重要な要素であり、地域の成り立ちや自然と共生する知恵を伝える貴重な財産として、自然環境や快適環境とともに保全し、より良い形で将来の世代へ伝えていくべきものです。

鹿野地区は周南市の最北部に位置し、市内で最も広い地区です。中心地域の標高は約370メートルで、冷涼な気候が特徴です。鹿野には、山口県指定文化財の「潮音洞」があります。また、「潮音洞・清流通り」は平成の名水百選にも選ばれています。そこで、今回は「名水サミット in 周南」において「潮音洞・清流通り」を紹介していただきました「鹿野ふるさと再発見実行委員会」委員長の原田明さんにお話を伺いました。

## 【鹿野ふるさと再発見実行委員会について】

「明るく元気な鹿野をつくる会」というコミュニティ組織の教育文化部会内に委員会を立ち上げ、平成23年から活動しています。60～70歳代が中心で、歴史や自然等に興味のある8人のメンバーがいます。

## 【活動をはじめられたきっかけは何でしょう】

鹿野の発展は潮音洞から始まったといっても過言ではないでしょう。その潮音洞をつくった岩崎想左衛門重友さんをはじめ、鹿野には地元の発展のために尽くした人が数多くいます。そのような人たちの思いを再認識し、正しく伝えていくために活動を始めました。



【天神山から見た鹿野地区の風景】

### 【どのような活動を行っていますか】

① 鹿野の発展の出発点ともいえる「潮音洞」について多くの人に知ってもらうために、勉強会を開催しました。鹿野に住んでいる人だけでなく、鹿野地区以外、また周南市外から約50名の方が参加されました。潮音洞や鹿野のまちを作った岩崎家の歴史、鹿野の市(いち)についての講座を開いたり、実際に現地を見て回ったりもしました。

② メンバーの中には、他の団体に所属している人もいます。そして、そのような他の団体と活動することもあります。例えば岩崎想左衛門のご子孫には教育や文化面で貢献された人もおられ、岩崎家には古文書や美術品等の文化財も多く残っています。今は他の団体と一緒に、その文化財の調査や整理をしています。

③ 「山野草のエキ保存会」という団体と「山野草のエキ」を整備し、保存する活動とともに、観光ボランティアガイドとして山野草観賞の案内等もしています。4月はサクラやカタクリ、5月はシャクナゲ、6月はササユリやアジサイ、11月はモミジ等を中心に観賞し、楽しんでもらっています。山野草のエキではほかにもベニバナヤマシャクヤクやミヤコワスレ、キチジョウソウなど多くの山野草と出会うことができます。



【「山野草のエキ」のベニバナヤマシャクヤク】

### 【苦勞していることは何ですか】

潮音洞のように歴史を紐解く場合、その裏付けとなる資料がないと説明できない、正確なことが伝えられないところです。また、資料が残っていたとしても、その内容やその人の思いをうまく伝えられるように編集するのは大変難しいです。

### 【やりがいを感じる、嬉しかったことは何ですか】

きちんと理解してもらえた時、思いを伝えられた時にやりがいを感じます。また、調査したり伝えたりしながら、自分自身で再発見できることも嬉しいです。

## 【平成の名水「潮音洞・清流通り」について教えてください】

潮音洞ができる前の鹿野の中心街は生活用水に乏しい場所で、当時の人たちは遠くまで水を汲みに行かなければいけないという難儀な生活をしていました。そこで、当時の地主であった岩崎想左衛門重友という人物が、漢陽寺の裏山にトンネルを掘り、山の向こうに流れる川から水を引けば良いのではないかと考えました。岩崎想左衛門が萩藩に提出した嘆願書が残っています。そこには、「鹿野の



【潮音洞】

人々は生活用水に難儀しているので漢陽寺の裏山を掘り抜かせてください。水を引くことができたなら、生活用水だけでなく防火用にもなります。流れ出て余った水は、荒れ地を開作した田んぼに利用させてください。経費は自分が負担します。」と書いてあります。岩崎想左衛門は私利私欲ではなく、まちに暮らす人々の生活を第一に考えて水を引こうと計画したのです。これに対し藩は許可証を出しており、潮音洞は作られたのです。潮音洞が完成したのは今から 360 年以上も前のことですが、この水は今現在も田んぼ等に利用されています。



【岩崎想左衛門重友の銅像】

また、清流通りですが、ふるさと創生事業交付金を活用して、平成 6 年に漢陽寺から現在の鹿野総合支所までの約 545 メートルを整備しました。水路、通路を広くきれいにし、公園を作ったりもしました。岩崎想左衛門がこの流れの基を作り出したということで、総合支所の前には彼の銅像を建てました。この整備事業が、平成の名水百選に選ばれるきっかけの一つになったのだと思います。平成の名水百選に認定される基準には、

水質だけでなく、周囲の自然環境の状況や歴史的背景、親水性があること、そして今なお保全活動が行われているかというようなものもありました。「潮音洞・清流通り」はそれらの要

素をすべて満たしていました。平成の名水に選ばれてからは観光に来てくださる方も増えました。観光に来られる方が増えたことで、老人クラブの皆さん等を中心に住民が一丸となって、清掃などの保全活動によりいっそう力を入れております。このような素晴らしい環境になったのも、もとをただせば岩崎想左衛門が潮音洞を作り上げたからであり、その潮音洞が鹿野の発展に貢献したのだと我々も再発見しました。

### **【どんな地域にしたいですか】**

今の鹿野は地元の人が代々守り継いできたまちで、余計な気を使うことなく、穏やかな暮らしができています。新しい人たちが入ってくるのはもちろん嬉しいことですが、昔からの鹿野の人や生活とうまく融合して、「鹿野らしさ」は失わないよう、住み良い地域にしていきたいです。